

同志社大学 土山 洋樹 監督

将来を考えた成功思考 頑張る者が頑張れる環境

今回は関西の同志社大学です。まもなく創部 80 年を迎える伝統校です。5月の西日本大学では女子団体組手チームが遂に初優勝を果たすなど、近年ますますの飛躍を遂げています。

2大会連続で女子団体形の世界チャンピオンを輩出しているのをはじめ、現役生だけでなく、卒業生も活躍を見せています。

それでは、土山洋樹監督に紹介していただきます。

■男女形組手、多種多様な学生が集う

現在部員は 28 名、男女・形組手とさまざまで、出身も関西だけでなく東西問わず全国から、また所属学部も右下のように文系理系さまざまあり、多様な顔ぶれが揃うチームです。

練習は週 5 日、1 日 3 時間がベースです。半分の時間で基本と、残り半分の時間で形・組手のパートに分かれての専門練習になります。平日は学生だけの練習、土日には指導スタッフがついてその 1 週間の学生の変化を見ながら練習をします。

競技技術の部分は部員自らが工夫して足りない部分を補っています。時には、柔道やボクシング部に習いに行きましたし、その影響で柔道部の学生が大会に応援に来てくれたこともありました。

■社会人となってからのさらなる活躍

よく言われるのですが、卒業後も社会人として活躍

したり、空手でも卒業後にますます力をつけて活躍する選手が多いです。女子団体形で世界大会を優勝したメンバーをはじめ、歴代の学生、卒業生が頑張ってきたのおかげだと思います。

部のアピールポイントでもありますが、「頑張る者が頑張れる最高の環境を常に考え、その中で学生の自主性を重んじ、学生同士の切磋琢磨によってレベルアップを図る」点が、上手く影響していると思っています。

「学生の自主性を促す」環境です。私は、監督は絶対的な指導者ではなく、学生とともに目標に向かって頑張る OB の一人という考えでいます。

■自主性を促す「できるまでやる」練習

環境をよくするために大事にしている考え方があります。「できないならできるまでやる」という考えです。

これが学生にとって大事な考えと思い、徹底しています。このことに関しては譲らず、時には厳しい練習量になることも承知の上でやっています。

仮に試合で相手にカウンターをもらって負けた。ならそうされない技ができなければならない。となれば、次に対戦するまでにそれができない限り、勝てない訳です。となると、どうすればいいか?それを自ら考えること、そして実行することにつながります。

■社会人への第一歩を習慣つける部のルール

また学生の自主性を重んじるなかで、部としての最



日々の練習は、基本、応用の時間がおよそ半々。チームの雰囲気も明るく、練習中はしっかり、オフは笑顔が溢れる。学生同士の切磋琢磨によってレベルアップを図っている。



今春の西日本大学では、女子組手が初の優勝。男女形組手ともに盛んな大学。



現役生、そして卒業してからもますます活躍をする選手が多い。女子団体形で世界2連覇を果たしている。

低限のルールがあります。

平日の練習後には、主将から練習内容の報告をしてもらっています。また、部員のやむを得ない場合の練習欠席の連絡義務を徹底しています。よく言う、「報告、連絡、相談」の徹底です。学生には必ず電話で、監督に直接してもらっています。

これも環境作りのひとつです。チームとして、皆でまとまって頑張るといった雰囲気作りに必要と思い、やっています。

とは言え、どんなタイミングで、どんな内容を伝えたいのか初めはわからないということもあるでしょう。ですので、入部時にオリエンテーションをしています。

それが、学生が社会人になったときのために生きてくると考えています。学生が卒業し、社会に出た時のために役立つ習慣づけとしてのルールでもあります。

■練習の自主性が、学生生活、ひいては社会生活の充実に

初めは厳しいと思われがちですが、若手OBも多く支援してくれて、その理解が非常に強くなっています。部専用の寮はないので、ほとんどが自分でアパートを借りています。勉強、空手に励むのはもちろん、生活のためのアルバイトも多くの部員がしています。

そういった部分でも学生が自己管理をしていくよう

になり、空手だけでなく、生活全般を自らプランニングできるようになっています。

■入試、就職で空洛会の大きなサポート

サポートという点で、空手道部のOB・OG会である空洛会の存在は欠かせません。学生の就職活動は空洛会が全面的にバックアップします。空洛会の卒業生ネットワークを最大限に活かし、OB・OGがいない企業にも積極的にアプローチできます。もちろん学生本人から直接、あまりお会いしたことのないOBに連絡をとることは難しいと思いますので、私が先輩方への連絡の仲介もしています。

同志社大学の入試ですが、公募制のスポーツ推薦が主です。また、商学部とスポーツ健康科学部の（主に全国大会上位入賞者向け）特別入試があります。詳細は毎年違いますので、大学のホームページを見ていただきたいと思います。

空手道部としては、入試の細かい説明やアドバイスの窓口を私がしています。また空洛会の先輩もその窓口になってくれており、高校生に親身になって相談を受けています。



近年、全国各地の若手OBも、多くサポートに駆けつけるようになっていく。

同志社大学 空手道部 (1937年創部)

部長：上田誠一郎 (法学部教授)
監督：土山洋樹

まもなく創部80年を迎える伝統校。男女形組手全種目の選手がおり、所属学部も商学部、スポーツ健康科学部、経済学部、社会学部、文学部、理工学部、文化情報学部、生命医学部と様々。学生の自主性と規律のバランスがとれた充実した環境。女子団体形で卒業生（酒居美美、井上和代、木村陽子）・現役生（柏岡鈴香）で2大会連続世界選手権を制覇。彼女らを始め、現役中、そして大学卒業後に実業団や社会人として活躍する部員が多い。

同志社大学 空手道部 監督

土山 洋樹
つちやま ひろき



1962年8月13日 京都府出身。13歳の時、山手学院の空手道部に入部。当時高校2年の鈴木雄一先輩（第6回世界選手権優勝）に手ほどきを受け、高校3年時にインターハイの個人組手準優勝。同志社大学に進学し、関西大会で多数の入賞を果たす。大学卒業と同時にコーチに就任。1998年ヘッドコーチ、2008年から監督に就任。武道空手とスポーツ空手の両面から見た、バランスの良い理にかかった指導をしている。